

## 理工学部創設50周年

記念行事が行なわれる

十月二十七日、理工学部創設五十周年記念行事として記念式典、記念講演および記念祝賀会が行われた。

記念式典では初めに高祖敏明理事長が、理工学部の発展に尽力した教職員、学生、卒業生に感謝の言葉を述べるとともに「これからも時代のチャレンジに果敢に取り組み、世界と人類家族に貢献していくことを期待したい」と挨拶した。



十号館講堂での記念式典

次に滝澤正学長は、理工学部の創設によって、上智大学が真の総合大学として発展していく基盤が形成されたことを紹介し「理工学部が名実ともに文理融合教育の実現を一体的に担っていくことが本学の発展にとって大きな目標だ」と話した。



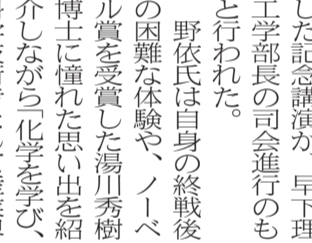
感謝状の贈呈

そして、早下隆士理工学部長がスライドを使って理工学部の五十年間にわたる歴史と現在に至る取り組みを紹介。「五十年前の理念を受け継ぎつつ上智大学にしかできない新しい理工学部の創出を目指す」と語った。

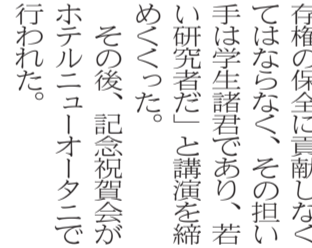


野依良治氏の記念講演

続いて理工学部創設にあたりドイツ・ケルン大会から多大な援助があったことから、ヨアヒム・マイスナー枢機卿に対し感謝状の贈呈が行われた。マイスナー枢機卿の代理としてフランツ・ヨゼフ・モール上智学院元財務担当理事に感謝状が渡された。枢機卿から



の祝辞として「理工学部と上智大学全体に神の祝福とさらなる成功をお祈りいたします」との祝辞が読み上げられた。その後、眞崎修後援会長と和泉法夫ソフィア会長の祝辞があり、式典は終了した。



野依氏は自身の終戦後の困難な体験や、ノーベル賞を受賞した湯川秀樹博士に憧れた思い出を紹介しながら「化学を学ぶ、科学技術者として産業界

## 理工学部英語コース開設

日本人学生の英語力強化の取り組みも

文部科学省国際化拠点整備事業(グローバル30)の構想に基づき、二〇一二年秋学期、英語で全て

の授業および研究指導、論文執筆を行う新たなコースが理工学部設置され、第一期生となる五人の学生を迎え入れた。新設されたのは、物質生命理工学科の「グリーンサイエンスコース」と、環境理工学科の「グリーンエンジニアリングコース」である。物理化学、生物学等を基礎とする環境科学分野の研究を行うプログラムに対し、グリーンエンジニアリングコースでは、物理学、機械工学、電気・電子工学等を基盤とする環境工学分野の研究を行うプログラム構成となっている。なお、二〇一三年度秋学期には、大学院での英語コースの開設も予定されている。

機能創造理工学科の「グリーンエンジニアリングコース」。グリーンサイエンスコースでは、物理学、化学、生物学等を基礎とする環境科学分野の研究を行うプログラムに対し、グリーンエンジニアリングコースでは、物理学、機械工学、電気・電子工学等を基盤とする環境工学分野の研究を行うプログラム構成となっている。なお、二〇一三年度秋学期には、大学院での英語コースの開設も予定されている。

また、理工学部では、日本人学生の英語力強化にも力を入れている。米国サンタクララ大学および同ノースカロライナ大学シャーロット校と提携した「理工系学生のための英語研修プログラム」や、外国人在学生をチューターに起用し、週一回研究室で英会話や英語のプレゼンテーションの練習を行うティーチングアシスタント制度を設けるなど、国際的に活躍できる科学者と技術者の育成に取り組んでいる。

## ソフィアの視点

上智大学は、これまで日本の大学に先駆けてヨーロッパやアメリカの多くの大学との交流や学生の交換留学等を進めてきた。しかしながら昨今の

の学士院や高等教育機関で活躍しており、これは学部創設五十周年を迎えた。また女性研究者の留る狙いがある。五十年前に本学理工学部の創立者たちが打ち出した理工学部の理念は、「学生に語学力

を備えた人材を育成すべく、新たにアジア圏を中心とした国際化戦略が求められている。筆者も理工学部英語コース開設に向けて、二〇一〇年から

理工学部では一九七七年に「科学技術国際交流委員会(STEIC)」を設置し、これらの大学強化が必要がある。しかし学生間交流の一

の英語コースもスタートさせる。これによって、アジア圏を含む世界中の大学と連携できる教育プログラムを共有し、留学も、ソフィアスピリット

を備えた人材を育成すべく、五十年前に本学理工学部の創立者たちが打ち出した理工学部の理念は、「学生に語学力を備えた人材を育成すべく、

## 理工学部が目指すグローバル人材育成

理工学部長・研究科委員長 早下隆士



また中国の哈爾濱(ハルビン)工業大学、清華大学を訪問し、申教授を始めとする理工学部教員との多くが、その後、中国

の英語コースもスタートさせる。これによって、アジア圏を含む世界中の大学と連携できる教育プログラムを共有し、留学も、ソフィアスピリット

を備えた人材を育成すべく、五十年前に本学理工学部の創立者たちが打ち出した理工学部の理念は、「学生に語学力を備えた人材を育成すべく、

の英語コースもスタートさせる。これによって、アジア圏を含む世界中の大学と連携できる教育プログラムを共有し、留学も、ソフィアスピリット

を備えた人材を育成すべく、五十年前に本学理工学部の創立者たちが打ち出した理工学部の理念は、「学生に語学力を備えた人材を育成すべく、

の英語コースもスタートさせる。これによって、アジア圏を含む世界中の大学と連携できる教育プログラムを共有し、留学も、ソフィアスピリット

## ナースィング・コミットメント・セレモニー

看護学科2年次生が専門職を目指す決意を誓う

十一月十日、総合人間科学部看護学科のナースィング・コミットメント・セレモニーが聖イグナチオ教会主聖堂にて行われた。

このセレモニーは海外のカトリック系看護大学の伝統に則り、二年次の学生たちが、看護の知識と技術と心を表す手

は「ケアとは人間の存在の根幹に向き合うこと。時には悲しみと向き合うこともあろうが、一人ひとりが世界を照らす灯火になるよう願っている」と式辞を述べた。

その後、増田祐志神父が「今日は大きなターニングポイントである。今までは多くの愛情や想いに支えられ、いわば受ける側であったが、今日から与える人生に百八十度変わる。この日の決意を

## 秋の叙勲

十一月三日に秋の叙勲受章者が発表され、石澤智(前上智大学長)が瑞宝重光章を受章した。



石澤教授はソフィア・ミッションとしてカンボジアにおける研究者や石工などの人材育成に尽力。アンコール遺跡クデイ寺院跡から仏像二百八十体を発掘し、アンコール王朝衰退に関する従来



の授業および研究指導、論文執筆を行う新たなコースが理工学部設置され、第一期生となる五人の学生を迎え入れた。新設されたのは、物質生命理工学科の「グリーンサイエンスコース」と、環境理工学科の「グリーンエンジニアリングコース」である。物理化学、生物学等を基礎とする環境科学分野の研究を行うプログラムに対し、グリーンエンジニアリングコースでは、物理学、機械工学、電気・電子工学等を基盤とする環境工学分野の研究を行うプログラム構成となっている。なお、二〇一三年度秋学期には、大学院での英語コースの開設も予定されている。

また、理工学部では、日本人学生の英語力強化にも力を入れている。米国サンタクララ大学および同ノースカロライナ大学シャーロット校と提携した「理工系学生のための英語研修プログラム」や、外国人在学生をチューターに起用し、週一回研究室で英会話や英語のプレゼンテーションの練習を行うティーチングアシスタント制度を設けるなど、国際的に活躍できる科学者と技術者の育成に取り組んでいる。